

沖縄県平和祈念資料館だより

平和祈念公園の光

資料館の2階にある太平洋に面するガラス張りの「海と礎の回廊」に立つと、東雲の間から太陽が穏やかな海面を照らしている。毎朝、その表情は変化に富んでいて見る人を魅了する。あの「港川人」や、久高島の「海人」や、斎場御嶽で遙拝する「琉球国王」や、鉄の暴風が吹き荒れた沖縄戦の「避難民」もこの眺望をどのように見たのだろう。

「平和祈念公園」・・・戦争の醜さと、人の生と死の意味を考え、後世に伝える場。戦争の悲惨さを学び伝えることによって平和を願う場。「沖縄のこころ」の原点となる場所の

ひとつが平和祈念公園である。

あの水平線に輝く、東雲から射す太陽の神々しさに感動できる「今の時代」に感謝する。このような光景を見ることができるとこの平和祈念公園を二度と悲惨な場所にしてはならないと、沖縄戦の教訓を語り継ぎ、平和な世界の実現を目指す。

平和祈念公園の中にある資料館はだれもが平和学習の場として活用することができる施設です。

沖縄県平和祈念資料館 館長 宮城 智子

第4回人権ラブソングコンテストの報告



このコンテストは、全ての人々の人権は尊重され、平和で豊かな社会を実現するための明快なメッセージとともに、「音楽」をキーワードにした応募コンテストです。小・中学生や高校生、そして大学生や一般のアマチュアバンドと個人に呼びかけて、「愛・人権・平和」に関する未発表の歌を募集したところ52組の応募がありました。最終審査には10組の皆さん、そして180人以上の観客の皆さんが来館していただきました。

受賞者ならびに受賞作は下記の通りとなっています。各受賞曲は沖縄県平和祈念資料館HPでダウンロードができます。また、上位受賞曲の4曲は、CDに収録し、県内の小・中・高校等の人権教育に活用していただくため配布しました。

- ★グランプリ曲「チカラ」 オオタクキナオ with humanistic
- ★準グランプリ曲「愛を嘆くなら」 春満奈美
- ★準グランプリ曲「虹の花を咲かせるために」 吉野里奈・瀬名波知佳
- ★審査員特別賞曲「大切な気持ち」 シン

- ★優秀賞6組 ・ジーンタマシロ&シュリスカイ
- ・ウエストビンゴ ・ピアガーデン
- ・レッドテールキャット ・ソウ
- ・電波ボーイズ



グランプリ：オオタクキナオ with humanistic



準グランプリ：吉野里奈・瀬名波知佳



準グランプリ：春満奈美



審査員特別賞：シン

第8回

特別企画展の開催報告

第8回特別企画展を「沖縄戦と戦争遺跡―戦世(イクサユー)の真実を伝えるために―」のテーマで、平成19年10月21日(日)～12月24日(月)に資料館(企画展示室)、平成20年1月16日(水)～2月24日(日)に八重山平和祈念館(第2展示室)に於いて開催しました。

今回の企画展では、県内における戦争遺跡の保存状態を知り、戦争遺跡のもつ意義を理解し、そして平和の創造について考えてもらうことを目指しました。

戦争遺跡は、戦争体験者の証言と一体となって沖縄戦の実相を伝えていく資料としてとても重要です。戦争体験者が少なくなっていくなかで、戦争遺跡のもつ歴史的意義はその重要度がますます高まっています。

開催にあたって、沖縄本島・伊江島・慶良間列島(渡嘉敷島・座間味島・阿嘉島・慶留間島)の戦争遺跡の現地

調査を行いました。沖縄本島では、摩文仁を中心に、大宜味村から糸満市まで調査しました。平和学習を行う際に現地見学が可能な戦争遺跡を中心に、その保存状況や遺物の収集、写真記録を行い、さらに戦争体験者からの聞き取り調査も実施し、その成果を展示しました。

展示は、戦争遺跡193ヶ所、実物資料270件(546点)、沖縄県立埋蔵文化財センター提供写真109点、写真パネル50点、戦争遺跡分布図などを活用して、沖縄本島における米軍上陸に始まり、戦闘の経緯に沿うようにしました。また、開催期間中、沖縄戦関係ビデオを放映し、沖縄戦講座を2回実施しました。

企画展の図録『沖縄戦と戦争遺跡―戦世(イクサユー)の真実を伝えるために―』は、戦争遺跡を見学する際にガイドブックとして利用できるように編集し、1,000部発行しました。なお、本図録は、『沖縄の戦争遺跡』としてミュージアムショップや県内書店において増刷され、販売されています。

資料館での芳名録記入者は2,730人でした。



沖縄戦講座の報告

1945年3月末、激烈な戦火がこの沖縄を襲い3ヵ月に及ぶ「鉄の暴風」は、島々の山容を変え、文化遺産のほとんどを破壊して、20数万人の尊い命を奪い去りました。戦後62年の経過と共に、戦争の教訓から学び、未来志向の平和を考える機会として、この講座は開設されました。第1回の講座には吉浜忍氏(沖縄国際大学教授)による「戦争遺跡に見る沖縄戦―保存・活用の課題―」、第2回は林博史氏(関東学院大学教授)による「沖縄戦と民衆―『集団自決(強制集団死)』をどうみるか―」でした。

平成20年度も2回の開催を予定しています。沖縄戦についてだけでなく沖縄の戦後史を理解するうえでも参考になる講座内容です。多くの方の受講をお待ちしています。



博物館学芸員実習

目的：資料館において館の活動や資料整理及び野外実習などの研修を通して、博物館・資料館職員としての基礎的知識や技能を習得する。

期間：平成19年8月14日～22日

内容：資料整理・分類・登録、展示の準備及び実際（企画展等）野外実習、調査研究

実習生：沖縄国際大学3名 京都造形芸術大学1名
九州産業大学1名



インターンシップの報告

沖縄県教育委員会の打ち出す「キャリア教育の充実」を支援するために、高等学校の「インターンシップ」と小学校の「チャレンジデー」を受け入れました。高校生は3日間の日程で、学芸班と総務班、そして受付や警備業務などを体験してもらいました。小学生は1日の日程で、おもに平和祈念公園内にあるガマの調査に参加していただきました。

7月12日(木)	坂田小学校6年生	児童4人
7月3日(火)～7月5日(木)	糸満高校	生徒7人
7月23日(月)～7月25日(水)	豊見城南高校	生徒7人
11月7日(水)～11月9日(金)	向陽高校	生徒7人



公園周辺の海岸調査

沖縄県平和祈念資料館講習会

当館への案内業務に携わっている旅行・観光等の関係者を対象に資料館の展示内容についての講習会を開催し、本館への理解と認識を深めて案内業務の推進を図ることを目的としています。

今年度(平成19年度)は、5月と2月の2回開催しました。

(日時) 第1回目 平成19年5月30日(水) 13:30～17:00
第2回目 平成20年2月13日(水) 13:30～17:00

(場所) 沖縄県平和祈念資料館 会議室

(対象) タクシー乗務員・バスガイド・ボランティア・観光等関係者

(参加者) 第1回目 42名・第2回目 52名



平成20年度

第18回 児童・生徒の 平和メッセージ { 図画・作文・詩 } 作品募集要項

1 募集対象

沖縄県内の小・中学校及び高等学校、特別支援学校の児童・生徒

2 応募方法

<各部門共通>

- 作品はすべて所属の学校を通して応募する。
- 図画・作文・詩ともに未発表作品で、各分野につき一人一点までとする。
- 学校名、学年、氏名(フリガナ)、題名を必ず記入する。

<図画部門>

- 市販の画用紙(四つ切り、38cm×54cm)を使用する。
- 画材、表現方法等は自由であるが、立体作品は避ける。

<作文部門>

- 原稿用紙は、400字詰め・B4サイズ・縦書きの市販の用紙を使用する。
- 小学校低学年は原稿用紙2枚程度、小学校中学年は3枚程度、小学校高学年は4枚程度、中学生及び高校生は5枚程度とする。作品は、必ず清書する。

<詩部門>

- 原稿用紙は、400字詰め・B4サイズ・縦書きの市販の用紙を使用する。
- 枚数は特に指定しない。必ず清書する。

3 募集期間

平成20年5月1日(木)～5月26日(月)

※5月26日(月)まで必着とする。沖縄県平和祈念資料館への直接持ち込み可。

4 作品の送り先

〒901-0333 糸満市字摩文仁614番地1

沖縄県平和祈念資料館(電話:098-997-3844)(FAX:098-997-3947)

平成20年度

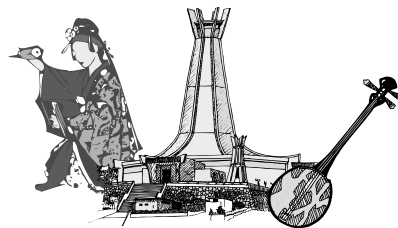
第9回 特別企画展「沖縄戦後の混乱から復興へ 一艦砲ぬ喰え残(ヌク)さー」(仮題)

住民を巻き込み多量の犠牲者を出した悲惨な沖縄戦から63年が経過した。県内各地域における沖縄戦中・戦後の収容所生活及び終戦直後の社会について、調査・研究及び聞き取り調査を実施し、展示することを通して、戦後沖縄の実相について理解を深め、廃墟の中から復興に立ち上がった沖縄県民の息吹とエネルギーを感じ、戦争と平和について考える機会とする。

1 期間・場所

期間…平成20年10月12日(日)～12月21日(日) 沖縄県平和祈念資料館
平成21年1月16日(金)～2月24日(火) 八重山平和祈念館

場所…沖縄県平和祈念資料館 企画展示室
八重山平和祈念館 第2展示室



2 展示内容

(1) 展示資料

展示する資料は、戦後復興に関わる実物資料と証言とする。展示対象期間は1945年4月～1952年までとする。

(2) 展示構成

- 導入の部…写真パネル・実物展示・地図(展示壁面、展示ケースの活用)
 - ①沖縄戦の原因と戦闘経緯 ②収容所の分布と概要(特徴)
- 展示の部…写真パネル・実物展示・地図(展示壁面、展示ケースの活用)
 - ①収容所からの帰還…各収容所からのそれぞれの旧居住区への帰還、帰還後の生活の様子(食・住・衣、日用品の確保) *壺屋陶工の再開、先発隊
 - ②経済面からの復興の様子…経済・通貨統制、戦果、物々交換、ヤミ市、密貿易、海外移住者からの支援
 - ③文化・教育面からの復興の様子…カンカラ三線、ウチナー芝居の再開、ニシムイ芸術村・青空教室、文教学校、琉球大学開学
- 結びの部…写真パネル・実物展示・地図(展示壁面、展示ケースの活用)
 - ①米軍統治の始まり・基地建設、琉球民政府の設置、パスポート、土地闘争
- 特別コーナー…映像ビデオ等の活用「そしてぼくらは生き残った」

①夏休み平和学習会「ムシロ作り体験」

●期間:平成19年7月21日(土)～9月2日(日)

夏休みの平和学習の場として、平和や人権に関する自由研究についてのテーマの決め方や資料の利用方法などの相談を受ける学習会を開催しました。

また、「ムシロ作り体験」コーナーを設置し、ムシロの作り方や使い方、戦時中の供出について学んでもらい、夏休み期間終了時には、1枚のムシロを完成させました。



ムシロ作り体験の様子

②第8回特別企画展

「沖縄戦と戦争遺跡～戦世(イクサユー)の真実を伝えるために～」八重山会場

●期間:平成20年1月16日(水)～2月24日(日)

前年10月に県平和祈念資料館で開催された同特別企画展を当祈念館においても開催しました。資料館で展示した資料のほか、八重山会場では、戦争マラリアの避難地である石垣島白水や西表島南風見を中心に八重山地域に残る戦争遺跡について、避難地の立体模型や採集資料、写真等を展示しました。開催期間中、修学旅行や平和学習等、県内外から800名を超える多くの方のご来場をいただきました。

◎ 平和学習の成果報告のため石垣市立名蔵中学校が来館

今年度、平和学習で当祈念館を見学した石垣市立名蔵中学校1年生6人が、平和に関する学習の成果報告のため、当祈念館を訪れてくれました。

生徒たちは、制作した資料を手に、「戦争のことについて初めてたくさんを知った。戦争の恐ろしさを改めて感じた」と学習の成果を報告してくれました。

今年度、平和学習として、八重山地域の学校23校、約1,700人の児童生徒が当祈念館を見学しました。「戦争マラリア」や沖縄戦を知る平和学習の場として、当祈念館をご活用ください。

《連絡先》

住 所：〒907-0014 沖縄県石垣市新栄町79番地の3

TEL/FAX：0980-88-6161

URL：<http://www.pref.okinawa.jp/yaeyama-peace-museum/>

E-mail：yaeyamaheiwa-mararia@basil.ocn.ne.jp

沖縄県平和祈念資料館友の会

(1) 活動内容

友の会では、資料館と連携しながら学習会やフィールドワークを自主的に行うとともに、以下のような活動などを行っています。

- ①地域（県全域）および学校における平和学習支援
- ②県外からの平和学習団体への講話・ガイド
- ③沖縄県平和祈念資料館常設展示室での解説

※申し込み先

事務局：沖縄県平和祈念資料館友の会（沖縄県平和祈念資料館内）

所在地：〒901-0333 沖縄県糸満市字摩文仁614番地の1

TEL：098-997-3844（沖縄県平和祈念資料館に同じ）

FAX：098-997-3947（沖縄県平和祈念資料館に同じ）

(2) 講話・ガイドの活動状況（平成19年4月～平成19年12月）

県内学校：小学校7校 中学校5校 高校7校 計19校

県外学校：中学校6校 高校10校 盲学校1校 大学1校 一般5団体 計18校

平成20年度 沖縄県平和祈念資料館年間行事予定

5月		子どもの日（児童は入館料無料） 親子ビデオ上映会
6月		子ども・プロセス企画展（1）「子どもたちと沖縄戦」
	23日	慰霊の日（入館料無料、沖縄戦関連ビデオ上映）
	23日～8月15日	児童・生徒の平和メッセージ展
7月	21日～8月31日	夏休み自由研究相談室
8月	1日～30日	新収蔵品展 子ども・プロセス企画展（2）「国際理解を深めよう」 親子平和学習会
10月	12日～12月21日	特別企画展「沖縄戦後の混乱から復興へ—艦砲め喰え残（ヌクサー）—」
11月		子ども・プロセス企画展（3）「人権について考えよう」 「沖縄戦」講座①
12月	14日	人権ラブソングコンテスト 「沖縄戦」講座②
1月		子ども・プロセス企画展（4）「平和について考えよう」
2月		沖縄県平和祈念資料館講習会

平成19年度 資料貸出状況

平和学習における戦争関係資料の重要性

平成19年度の貸出資料(実物資料・写真・児童生徒の平和メッセージ展パネル・沖縄戦の絵)は、県内12団体283点、県外8団体221点、合計20団体504点の資料を貸し出しました。これは、平成17年度280点、18年度311点と比べると突出した数字です。このことは、平和学習等での戦争資料の価値がますます高まっていることを表しています。今後とも当館所蔵の戦争関係資料を活用し、平和学習をより深めていただくようお願いします。

19年度 寄贈品紹介

沖縄県平和祈念資料館では戦争を知らない多くの戦後世代へ、悲惨な戦争の教訓を語り継いでいくために、戦争関係の資料、戦前・戦中・戦後の資料の提供を呼び掛けています。平成19年度は、25人の方々から300点余りの寄贈がありました。ありがとうございました。寄贈された資料の一部を紹介します。これらの資料は、新収蔵品展・特別企画展などで紹介していきます。

1.戦時中の女児の着物

与儀 隆氏 寄贈

沖縄戦当時、那覇から糸満への逃避行中女児が着ていた着物。着物の持ち主は、現在ハワイに在住している。



2.臨時召集令状

石橋 希巳枝氏 寄贈

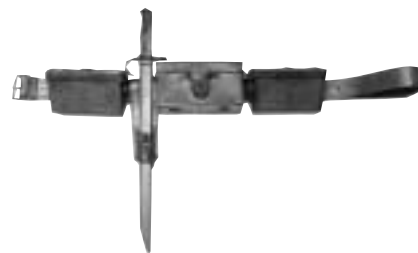
通称、赤紙と呼ばれた。召集令状は、役場の兵事係から本人や家族に直接渡され、召集された本人が兵営に持参するため、現存するものは少ない。県内にも僅かしかなく資料的価値は高い。



3.弾薬盒革帯一式

金城 茂氏 寄贈

弾薬盒・銃剣差し・30年式銃剣・革帯は、一般的な兵士が携帯していた弾薬盒一式である。革帯と呼ばれる牛革製のベルトに銃剣差しと小銃の弾丸入れである弾薬盒があり合計弾丸120発を携帯できる。接近戦では、銃剣を鞘から抜いて小銃の先に着剣する。



ミュージアムショップ人気商品情報

ミュージアムショップでは資料館で刊行・作成した、沖縄戦関連の出版物やビデオなどを販売しています。



映像関係 (VHS・DVD)



書籍関係



民芸品関係

VIPご紹介

今年もおかげさまで、県内外を中心に多くの皆様が当資料館を訪れ、平成20年2月末までに約41万人のお客様が訪れました。今年度訪れたVIPの方々をご紹介します。



岸田文雄沖縄・北方大臣
(H19・9・2)



柳明桓韓国駐日大使
(H19・11・19)



ホセキューバ駐日大使
(H20・2・22)

平成19年度人権ラブコンテスト グランプリ受賞

「チカラ」

グループ名：オオタ ユキナオ
作詞・作曲：ATU

* WOW WOW WOW WOW

皆一人じゃ 生きて行けない そんな当たり前のコトだって
忘れちゃう時 たまにゃあるけど
想いだそうよ 見渡してみよう

* くり返し

ひとりぼっちと感じてるのは 君ひとりだけじゃないんだよ
そんな時には 手と手取り合い
叫んでみよう 歌ってみよう

* くり返し

きみにとっての ぼくはどれだけ
チカラになってるのかな
伝えあってみよう 語りあってみよう 信じあってみよう

* くり返し

皆一人じゃ 生きて行けない そんな当たり前のコトだって
忘れちゃう時 たまにゃあるけど
想いだそうよ 見渡してみよう
ひとりぼっちと感じてるのは 君ひとりだけじゃないんだよ
そんな時には 手と手取り合い
叫んでみよう 歌ってみよう

君と僕から 始まるコトバ 「アリガトウ」の感謝のシルシ
そのコトバ達 羽ばたくように この空へ 解き放とう
皆一人じゃ 生きて行けない だから皆で支え合い
歩いて行こう 進んで行こう 明日へと続く架け橋を
君にとつての 僕はどれだけ チカラになってあげられるか
伝えあってみよう 語りあってみよう
許しあってみよう 信じあってみよう!

資料のご提供について

戦後63年が経ち、戦争を知らない多くの戦後世代へ、悲惨な戦争の教訓を語り継いでいくためには、戦前、戦時中、終戦後の資料等がますます重要な役割を果たしていくこととなります。このような資料をお持ちの方、貴重な思い出の品々かとは存じますが、ご提供をたまわり、今後に活用させていただきますようお願いいたします。

ビデオの無料貸出について

当資料館では、「沖縄戦体験者証言ビデオ」全26巻の貸出しと資料館制作の沖縄戦ビデオ「そしてぼくらは生き残った」のビデオの貸出しを行なっています。

是非、事前学習等でご利用ください。
※郵送の場合は、送料は借手負担となります。

編集・発行：沖縄県平和祈念資料館

住所：〒901-0333 沖縄県糸満市摩文仁614番地の1 TEL:098-997-3844 FAX:098-997-3947

URL:www.peace-museum.pref.okinawa.jp

E-MAIL:webmaster@peace-museum.pref.okinawa.jp